

日清製粉グループ 第1四半期連結累計期間決算、通期連結業績予想

[2023年3月期第1四半期連結累計期間決算]

売上高	1,892億96百万円（前年同期比118.9%）
営業利益	88億59百万円（前年同期比120.8%）
経常利益	99億19百万円（前年同期比112.3%）
親会社株主に帰属する 四半期純利益	63億6百万円（前年同期比113.9%）

（株）日清製粉グループ本社（取締役社長：瀧原 賢二）の2023年3月期第1四半期連結累計期間につきましては、国内経済は引き続き新型コロナウイルス感染症の影響は残るものの、経済活動の制限も徐々に緩和され、個人消費の持ち直し等、平常化に向けた動きを見せております。しかしながら、ウクライナ情勢に起因する穀物・資源価格の急騰や為替相場の円安が加速するなど、食糧インフレが進行し、事業環境にも大きく影響が及んでおり、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような中、当社グループは、小麦粉をはじめとする「食」の安定供給を確保し、各事業において安全・安心な製品をお届けするという使命を果たすべく取り組んでおります。また、原材料等の大幅なコストアップへの対応を最優先課題として取り組むとともに、長期ビジョン「NNI “Compass for the Future” 新しいステージに向けて ～ 総合力の発揮とモデルチェンジ」で目指す姿の実現に向け、更なる成長の基盤づくりを着実に進めております。

当第1四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は、国内製粉事業の麦価改定に伴う小麦粉価格改定の実施、海外製粉事業の小麦相場上昇や為替換算の影響等により1,892億96百万円（前年同期比118.9%）となりました。利益面では、食品事業において出荷減と7月以降に製品価格改定を控える中、想定を上回る原材料等の大幅なコスト上昇があったものの、国内製粉事業の小麦粉価格改定前の前倒し需要等による出荷増や海外製粉事業の業績好調等により、営業利益は88億59百万円（前年同期比120.8%）、経常利益は99億19百万円（前年同期比112.3%）、親会社株主に帰属する四半期純利益は、63億6百万円（前年同期比113.9%）となりました。

[2023年3月期通期連結業績予想]

新型コロナウイルス感染症の影響やウクライナ情勢等、国内外の社会及び経済の先行きは極めて不透明な状況にあります。このような中、当社グループは、主要食糧等の安定供給という社会的使命を果たし、長期ビジョン「NNI “Compass for the Future”」の実現に向けて引き続きグループ一丸となって取り組んでまいります。

また、当社は原材料等の大幅なコストアップへの対応をグループの最優先課題として捉え、各事業はその対応を確実に実行してまいります。加えて、2022年3月期におけるニュージーランド製粉事業の減損を踏まえ、オセアニア地域の市場変化を的確に見据えて、豪州製粉事業の事業計画を再検証してまいります。

2023年3月期の業績見通しにつきましては、コストインフレによる事業環境への影響が依然として不透明な状況であることを踏まえ、売上高は7,600億円（前期比111.8%）、営業利益は300億円（前期比101.9%）、経常利益は310億円（前期比95.0%）、親会社株主に帰属する当期純利益は185億円（前期比105.7%）と、当初予想を据え置いております。

なお、新たな中期経営計画につきましては、コストインフレへの対応、豪州製粉事業の状況を加味して策定し、本年10月下旬に公表する予定であります。

当期の配当につきましては、連結ベースでの配当性向40%以上を基準として配当を行う基本方針のもと、当初の予想どおり、前期据え置き1株当たり年間39円を予定しております。

以上